第8日

令和6年9月11日（水）

午前10時零分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は18名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、10日に引き続き一般質問を行います。

それでは、12番中島秀樹議員の質問を許可します。中島秀樹議員。

（12番中島秀樹君登壇）

○12番（中島秀樹君） 皆様、おはようございます。発言の許可をいただきました12番議員中島秀樹でございます。今回も一番最後になりました。昨日の夜、原稿を準備しておりまして、今の時間、起きているのは俺ぐらいだろうなと。みんなもうスヤスヤ寝ているんだろうなと思いつつながら原稿を書いております。何を話そうかなといろいろ考えたんですけども、こんなことを話したいと思えます。

先日、私の長男が帰ってまいりまして、東京にいます。東京では、本社は東京にあるんですけども、ほとんど会社には行かないそうです。自宅でリモートワークといいまして、会社に行くのは出張扱いだということです。そんな会社に行かなくていいんだろうかと思うんですけども、そういう働き方があると言っていました。

これって、朝倉市にとってもチャンスだよなと思っております、リモートワークがこれから伸びれば、住む場所は別に都会じゃなくてもよくなるよなと思っております。息子にもリモートワークだったら、それだったら朝倉でも仕事できるだろう。だから、私の地元、桑原に帰ってきなさいと言ったら、帰ってくるよと。ただ、すぐには帰ってこれないと。もうちょっと時間をくれというふうに言われました。

よかった、よかったと思ひまして、息子が帰ってくるんだったら、家の床がちょっとブカブカしているのとか、そういうのを直してあげないと、息子の代にお金もかかるし宿題を残すような形になるよなと思っております。ある程度やっぱお金も貯めとかないといけないよなと、そういうことを感じました。

そういった残すということで考えましたところ、こんなことを思い出しました。後藤新平の言葉、後藤新平さんは関東大震災のときに東京の市長とかをして、首都東京のリデザインをしたような有名な政治家でございます。

この後藤新平さんが言った言葉が、こういうものがございます。財を残すは下、下ですね。仕事を残すは中、人を残すを上とするという言葉がございます。この名言は、名監督の野村克也さんが、金を残すのは三流、名を残すのは二流、人を残すのは一流という言葉

でも有名でございます。私も、そうだよな、やっぱりお金だけ残してもだめだよねって。やっぱり人を残していかないといけないよね。そんなことを思っております。

この残すという言葉を考えてときに、ある歌が思い出しました。ここで歌を歌うわけにはいきませんので、歌詞だけ読ませていただきたいと思います。東日本大震災のときのチャリティーソングになった花は咲くです。これ、ふるさとに対する甘酸っぱい思いとか、そういったのが含まれている、ふるさとと、日本のあの「ふるさと」、うさぎ追いしの「ふるさと」と並ぶ名曲だと思っております。

歌詞を読ませてもらいます。

真っ白な雪道に春風薫る。私は懐かしいあの街を思い出す。かなえたい夢もあった。変わりたい自分もいた。今はただ懐かしいあの人を思い出す。誰かの声が聞こえる。誰かを励ましている。誰かの笑顔が見える。悲しみの向こう側に。花は花は花は咲く。いつか生まれる君に。花は花は花は咲く。私は何を残しただろう。

朝倉市の職員の皆さん、議員の皆さん、何を残しましたか。そして、これから何を残しますか。続きは質問席より質問させていただきます。

(12番中島秀樹君降壇)

○議長(小島清人君) 12番中島秀樹議員。

○12番(中島秀樹君) では、通告書に従い、質問させていただきます。

まず1番目に、6月議会の積み残しである避難行動要支援者名簿について、名簿情報の提供についてを質問させていただきます。

まず、災害対策基本法というのがございます。国土並びに国民の生命、身体及び財産を災害から保護し、もって社会の秩序の維持と公共の福祉の確保に資することを目的とする。

私が特に注目したいのは、公共の福祉の確保に資するという部分を注目したいと思います。この中でいろんな柱があるのですけれども、被災者保護対策ということで、避難行動要支援者名簿及び個別避難計画の事前作成をなさйтеというふうになっております。

まず、お尋ねします。この2つ、避難行動要支援者名簿と個別避難計画の事前作成は、朝倉市のほうはきちんとできてますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長(小島清人君) 総務部長。

○総務部長(梅田 功君) 担当防災交通課のほうで、避難行動要支援者名簿及び個別の避難計画の策定を進めているところでございます。

○議長(小島清人君) 12番中島議員。

○12番(中島秀樹君) 国が、災害対策基本法で定めた避難行動要支援者名簿の提供についてお尋ねしたいと思います。この状況についてお尋ねいたします。

この避難、この情報の名簿、これは対象者がいると思うんですけれども、対象者が全部網羅されていますでしょうか。私はそれが気になっております。お尋ねします。

○議長(小島清人君) 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 対象者は基本的なものは国のほうで定めておりますが、個別具体的には各自自治体のほうで定めるといふふうにされております。

朝倉市の該当者といたしましては、高齢者75歳以上のみの世帯の方でありますとか、介護保健法の要介護認定3から5を受けていらっしゃる方とか、そういうような規定を定めているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） この名簿は平常時でも、今から協働の時代ですので、地域の関係者の方とかそういった協力を得ないといけないと思うんですね。市の職員だけで避難の陣頭指揮といいますか、それを全てやるようなおつもりですかね。

協力を得ないといけないと思いますので、名簿って、例えば対象者が1,000人いたら、1,000人全部網羅できていないといけないと思うんですけども、そしてよく民生委員さんから名簿が出してもらえないと、そういうことを聞くんですけども、そういった名簿の提出っていうのができてないといけないと思うんですが、ここのところはどうなってますでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まずは、先ほど申しました要件に該当される方、おおむね7,000名程度いらっしゃいます。

その中で、まずは在宅以外で施設に入っている方とか自力、家族で避難が可能であると、もうはっきり分かっている方、そちらを除いた方々約3,000名ぐらいになるんですけども、そちらの方々を対象に名簿の提供を同意していただけるかどうかの確認作業をしております。

その同意を得た方、そちらの方がおおむね900名ほどいらっしゃいますので、そちらの方の名簿を自主防災会のほうに提供いたしまして、個別避難計画の策定を進めているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 約3,000名いらっしゃって、そのうち名簿の提出の同意を得ている方が900名というふうに聞きました。これって、まず約3分の1ですよ。3分の1だったら、私は把握できていないんじゃないかと思うんですけども、要するに回収率としては30%、33%ぐらいですよ。回収率が悪いと思うんですけども、ここのところは大丈夫でしょうか。

問題があるのではないかというふうに思っていますが、同意していない方の名簿も提供しないといけないというふうには私は仮定するんですけども、これについてはどうお考えになりますか。どんな課題がありますでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まず、心身の機能の障害等に関する情報等をほかの方に知ら

れることで、要支援者の方、またその御家族が不利益を受けるおそれがあるというようにも考えられます。個人情報保護のため、平常時の外部提供に関しましては、原則として本人同意を必要としているのが災害対策法の趣旨というふうには理解しております。

一方で、自治体が独自に条例を制定することで、本人から不同意の申出がなければ同意したものとみなす、いわゆる推定同意方式です。そうすることも法律の規定で、本人同意の有無にかかわらず外部提供することも可能というふうにはなっております。議員申されるとおりそういうふうになっております。

この規定に関しましては、個人情報保護の観点からは、名簿情報の適切な運用が担保される、そういうときに限って名簿情報が提供できるとの考え方があることから、その点には十分留意しなければならないというふうを考えております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 災害対策基本法では、結局、同意した人だけに名簿の提供というのでできると。平常時はですね。災害時は、要するに3,000人いたら3,000人分は出せると思うんですけども、ですけども、いきなり日頃は1,000人の名簿しか見ていないのに、災害のときに3,000人の名簿をもらっても、1人の方が3,000人分もらうわけではないでしょうけども、3倍の数を取り扱わないといけませんので、それは私はまずいんじゃないかなと思っております。

常に平時のときから3,000人の名簿を見て、そして災害のときに把握しておくといひますか、こういう人がいるよねと。うちの地区には何人いるよねと。そういった動きをしないと、本当の役に立たないんじゃないかなと思っております。

私は障害者の方と接する機会が多いんですけども、障害のある方というのは、言葉がちょっと過ぎるかもしれませんが、世の中の中でひっそりと生きていらっしゃるような方が多いんですね。また、今少子高齢化とかが進展したり、コロナがあったりして、地域の絆が希薄化していると思います。それによって、住民の交流の機会が減少しております。

そしたら、ひとり暮らしの高齢者であったりとか、私がよく会う障害者であったりとか、支援を必要とする人の孤立が生まれているんじゃないかなと思っております。よくなんか、市役所からはがきが来たけれども、よく分からないで出していないとか、はがきの内容が理解できないとか、誰にも聞けないでいるとか、そういう方が多いんじゃないかなと。私は想像するんですね。

だって、3,000人のうち1,000人しか出してないんですので、あとの2,000人というのは、ほったらかしとっていいんですかと。私は思うんですけども、もっと踏み込んでやるべきだというふうに思っております。

条例の定めをすれば、平常時でも名簿を出していいような条例を定めることができるというふうに、災害対策基本法ではうたっております。実際に福岡市、糸島市、春日市はこ

の条例をつくっております。私はこの条例をつくるべきではないかなと思っています。

イメージとしては、名簿に載せないでくださいという返事をした人だけが載せない。あとの人は全部載せる。そしたら3分の1ということではなくなるのではないかなと思っています。私はぜひともこの条例の制定をしてほしいと思っているんですけれども、執行部のほうがしないのであれば、私が出してもいいと思う。そこまで考えています。

非常にハードルが高いと思うんですけれども、でもチャレンジしたいというふうに考えております。いろんな考え方があると思うんですけれども、この同意がないときでも提供できるように条例を制定すべきだと私は考えます。もう一度言います。同意がない方でも名簿を提供できるように条例を、春日市や糸島市や福岡市のように条例を制定すべきだと私は考えますけれども、どのようにお考えでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まず、先ほど私が同意いただいた方900名程度と申し上げましたが、正確には988人ということで報告させていただきます。

まず、条例制定の必要性につきましては、他の自治体の動向も注視させていただいたところでございます。令和5年当初で、内閣府及び消防庁のほうは調査結果を公表してありますが、全国的に見ましても、平常時の名簿情報の提供について、条例で特別に定めている団体は1,718団体中、160団体、9.3%の状況でございます。

また、不同意の方、未回答の方についての情報を提供したと仮定しますと、朝倉市の場合は988件が3,013件というふうな数字になりまして、約3倍を超える件数になります。本年4月に自主防災会に対しまして、個別計画の作成について改めて本年度分をお願いしたところでありまして。

作成にかかります負担や課題なども把握させていただきながら、併せて支援が必要な方、また支援をしていただく方、専門的な知見がある方などから、様々な意見をいただきながら考えていきたいと考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今の数字が出てまいりましたけど、ちょっと数字を丸めて言わせていただくんだけれども、約1,700市町村があつて、そのうち160市町村、9%とおっしゃられましたので、全国で僅か9%しか出していないと。

ですから、執行部のほうとしても、私が条例を制定しろと言っても、もう少し様子を見ようかなと考えるのは理解できるんですね。でも、私は全ての地域住民が参加して、朝倉市民誰もがかけがえのない存在として尊重されて活躍できるような、朝倉市が連携して地域づくりに取り組むことが必要ではないかというふうに考えております。住み慣れた朝倉で弱者の方が安心して住める、そういった地域、朝倉をつくっていききたいと考えております。

近年、全国的に大規模な災害が多発しています。先ほど災害対策基本法のこの中で言

いましたように、公共の福祉に資すると、確保に資すると、そういった福祉支援の充実が私は必要だというふうに考えておりますが、でも条例だけつくっても、それを仏作って魂入れずで、やっぱり運用という部分がついてくると思うんですね。

この踏み込めない理由といいますか、運用上の問題点とかが多分、私は実は民生委員の方とか、区長さんとかとは直接的には自分の地元の方としか接していませんけれども、いろんな声があると思いますが、これについてはどういった問題点といいますか、踏み込めないハードルは何でしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まず、ハードルは名簿の提供だけでしたら、ハードルはさほど高くはないかなと思います。名簿の提供の目的が個別避難計画をつくっていただくというところにあるというふうに思っています。

そのためには、やはり地域の方々については、朝倉市内でも人口が多く、転出入が多い地域とか、通常の間人関係がちょっと薄いという地域もありますので、なかなか自主防災会であるとか、区会長さんをお願いいたしましても、その方自体を知り得ていないぐらいの関係性が多々見られます。

そういうところがありますので、そういうふうな確認作業の時間、労力でありますとか、責任とか、そのあたりが増えてしまうことはちょっと懸念されるかなと思っています。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私も去年、隣組長をしておりまして、いろんな仕事の名簿とかをもらって、よかった、これぐらいの仕事の対象者がこれぐらいで、これだったら1日で片付くよねとか、そういうふうに思ったことが多々ありました。

それが、今の例えでいくと3倍になるわけですね、今の名簿の。そうすると、やはり運用する側としましては、忙しいのにこればかりやっていけないよと、大変だと、こんなに大変だったらやりたくないとか、もうできないとかいう声もあると思います。

私が一方的に条例をつくりなさいと言っても、やはり運用のことも考えてやっていかないといけないと思っていますので、このところは地ならしといいますか、よくよく考えてやっていかないといけないと思っています。

ただ、やはり3,000人のうちの約1,000人、988人とおっしゃいましたけど、1,000人というのはやはり3分の1ですから少ないんじゃないかなと思っています。昔、よくお役所は申請主義と言われるよね。行政サービスを利用する際に、自ら申請した人だけがサービスを受けられると。その対局には、出前主義というのがありますよね。事前に働きかけるというような出前主義というのがありますよね。

よく、生命保険とかで申請しないと生命保険をもらえなかったのが、昔と違って今はこんなお届けがあったけど申請漏れありませんかとかいって、生命保険会社から電話がかか

ってきたりとか、損害保険会社から電話がかかってくるような時代になりましたけど、私はやはり行政って変わっていかないといけないから、出前主義の発想というのは必要ではないかなと思っているんですね。

くどいようですけれども、3,000人対象者が朝倉市にはいるんです。でも2,000人は一応名簿の中から漏れている。これでいいんですかね。私はやっぱり出前主義で行くべきじゃないかと。だって、やはり朝倉という、本当に住みやすいまちじゃないですか。そしたら、共同で力を合わせてやっていくというのが、朝倉の魅力じゃないですかね。そして、大変でしょうけども、市の皆様がその旗振り役になるのが、私は理想じゃないかなと思っています。

すぐに変えますというふうには言えないでしょうけども、出前主義で行くべきだと。申請主義やめなさいと言いたいんですが、いかがでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 先ほど、自主防災会のほうにお願いしたというところで説明させていただきましたが、4月以降、担当課とも話をしまして、例えば介護保険法の認定3から5の方が介護訪問調査とか行かれる場合とか、そういうようなときにでもプッシュ型で、その件についてお尋ね確認するとかという作業も必要じゃないとか、関係部署との連携をもっと深めていくようにということで今話をしているところです。

ですから、自主防災会にお願いする前段の作業ですね。それをまずは進めていかなければならないというふうに考えております。

その点については、出前、プッシュ型というようなことになるかとは思いますが、さらにそれをそういうふうな行政ともなかなかつながりがない方もあられると思います。そういう方々については、まだ検討をしなければならないというふうに思っているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） やはりスムーズな移行といいますか、激変はよくないと思いますので、よくよく調査した上でこの問題というのは前に進んでいきたいなというふうに思っております。

私は先ほど言いましたように、福岡市、春日市、糸島市、全部条例を読みました。頭にある程度入っています。だから動きが遅いとか、これ必要だね、それから議員の皆様の賛同が得れるのであれば、私がこれを発議させていただきたいというふうに考えております。

ただ、言いましたように、いきなり出すというのは、やはり現場の混乱を来したりするようなこともあると思いますので、ここの部分につきましてはよく考えて私も行動したいというふうに考えております。どうぞ、執行部のほうも御検討いただきまして、いい方向に、よい朝倉になるように、行動を起こしていただければというふうに思っております。この質問は終わります。

次に、学校トイレの洋式化の考え方についてということで、6月議会の続きの質問みたいになってしまうんですけども、昨日、柴山議員の方が大よそ聞いていただきましたので、大体分かるかと思うんですけども、私も2回続けて同じことを言うのはくどいと言われるかなと思って、非常に躊躇をしたんですけども、でもこの問題は大事だと思いまして、質問をさせていただきたいと思っております。

まず、お尋ねしたいのが、私はやる必要があるものはすぐやるべきだと考えております。昨日、小学校は1年前倒し、中学校は2年前倒しということで御回答をいただきました。

私は、前回の議会の中で、基金を取り崩してすぐやりなさいと、やってくださいと。ふるさと納税を使ってすぐやってくださいというふうにお伝えいたしました。もっと早くやってほしいというのが本音なんですけれども、でも組織決定として、1年と2年の前倒しということが出てまいりました。もっと早くできないんでしょうか。なぜ1年前倒し、2年前倒しなんんでしょうか。これをお尋ねします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 一度に残り全部やれないのかというような御質問かと思えますけども、現在、小学校、まず11校のうち、洋式化が完了しているのが2校。今年度、来年度にかけて洋式化を実施する当初からの予定であったものが、2校プラス1校で3校ということで、残りが6校ということになります。まず数が多く、なかなかこちらも対応ができにくいといった状況がございます。

理由としましては、設計管理をするための人的資源であったりとか、財政面であったりとかといった課題がございます。工事にかかる経費につきましては、極力市の負担を抑えて国庫補助等を活用していきたいといった思いがございますので、そういった対応になっているというところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、マンパワーといいますか、人的資源、確かに残りの2校終わっていて、仮に9校を一遍にやるとなると、かなりの事務量になるし、人もそれなりにさかないといけないと思っていますので、やっぱり仕事が雑になったりとか、リソースが足りないという話はなると思うんですけども、財源の話も出ましたですね。

私はさっき言ったようにふるさと納税とか、基金を使ってでもやりなさいというふうに前回申し上げたんですけども、この財源については一般財源でやるんですか、どういったことをお考えになっているか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 財源につきましては、極力国等の補助、国庫補助等を使いまして、市費、市の負担を極力減らしたいということで考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 国庫補助を使ってということですので、ある意味市費を抑えると

というのは、ある意味王道なのかなと思いますので、全額持ち出しでというわけにはいきま
せんでしょうから、そこのところは理解いたします。

そしたら、令和6年度も既にもう走り出しているわけなんですけれども、令和6年度っ
て当初の計画があってそのとおりしかやらないんでしょうか。私は急いでやってほしいと
いうふうに思っているんですけども、令和6年度は何もしないんでしょうか。そこのとこ
ろをお尋ねします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 令和6年度につきましては、当初の計画で福田小学校、朝倉
東小学校と継続しております立石小学校が予定として、まず入っております。

それに加えて、まだ現在調整中ではございますけれども、現行の予算を活用いたし
まして、追加で工事ができないかといったことを今検討させていただいているといった状
況でございます。

また、来年度にも当初予定していた分に加えて、新たに追加の工事ができないかと
いうことで、今年度中にも設計業務のほう、これについても取りかかれぬかということ
で、今調整をしているといった状況でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 現状の予算を活用してということでしたので、例えば入札をし
たら、入札の残が出たりすると思うんです。そういった入札の残とかを使って、とにかく少
しでも早く前に進めていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い
いたします。

そしたら、私は前回35.4%という、あまり福岡県の中で下から2番目という数字になっ
て、これじゃ若者に朝倉市は選んでもらえないということを言いましたけれども、例えば、
令和6年、令和7年、令和8年というふうに小学校の改修が続いていくわけですけれども、
これの洋式化率というのはどのように変化していきますか、どういう数値目標を立ててい
るかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） まず、第3次総合計画の中で目標値としておりました、令和
8年度、これが62%というような目標を立てておりましたけれども、先ほど議員もおっしゃ
っていただきましたように前倒しをするという中で、令和8年度におきまして、10ポイン
ト程度上回るような予定にしております。

最終的には、和式便所を全くなくすというところまでは考えておりませんので、令和10
年度末で96%までということで、今計画をしておるところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 令和8年度、第3次総合計画では62%だったのが、約10ポイント
伸びまして、そして最終的には令和10年だと思っておりますけれども、96%ぐらいまでなると

ということですので、ぜひともこれ守っていただいてやっていただきたいというふうに思っております。

私は前回の議会の中でも、いつまでにやるということ、要するにこの前倒しにやるということを早くアナウンスしてくださいと、要するに待っているほうとしては少しでも早くやってほしいけれども、1年早まりましたということをアナウンスしてもらったら待つほうも待ちやすいというふうに思っておりますが、これ現場のほうであったりとか、保護者の方について周知はされていますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） この計画の変更をしましたが、まだ直近の状況でございますので、保護者等へのアナウンス等については、現在まだできておりません。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 個別のどこどこ小学校を何番目にやりますとか、そういうのはなかなか言いづらいというふうに思いますけれども、全体として1年前倒しになって早くなったということは、これはぜひとも言っていただければ、保護者の方は大変喜ぶと思うし、朝倉市も子どもたちのことを考えてくれているんだと、そういう市なんだということが分かると思います。

この前倒しの計画というのは、最終的には予算化も必要ですから、市長部局まで話が通った話だと思っております。そういった意味では、教育長であったりとか、市長が了解をして決めていった話だと思っております。

1年間前倒しにしたというのは、どのような考えで1年間前倒しを決定されたのか、改めてお尋ねしたいと思います。そして、これは市民に対するメッセージとして、ぜひともこの議会で御発言いただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 前回の6月議会で、要はトイレの洋式化につきましては、議員の方々から御指摘をいただきまして、学校現場をその後、再確認をさせていただきました。

まずは、和便器を洋便器に改修するというのを、急務であるということを再度確認させていただきましたので、市長からの指示を受けまして、そういうふうにさせていただいたところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、教育長のほうから市長からの指示というのもございましたので、もし市長、何かお考えとございますか、ございましたら一言お願いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 6月議会で御指摘をいただきまして、今、教育長から答弁がありましたように現場をしっかりと見て、しっかりとやれるというようなことも聞きましたので、それではなるべく早く取り組むようにということで指示を出させていただいた次第であり

ます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） くどいようですけれども、やる必要があるものはすぐやるということ、私再度申し上げたいと思います。

先ほどの予算の入札残のことなんかも言わせていただきましたけども、そういったものが出たら少しでもいいですから、前に進めていっていただきたいと思っております。そういった形で、できるだけ早く100%に、100%にはしないということでしたけれども、100%近くになるようにコマを前に進めていただきたいというふうに思っております。この質問については終わりたいと思います。

次に、学校教育に注力したいということで質問をさせていただきます。

まず、この質問をするにあたりまして、私もいろいろ文献を読んで調べたんですけども、あくまでも本に書いてあることを、自分の言葉のようにしてしゃべるのはどうなのかなと思いますので、文献だけまず先に御紹介させていただきます。

『データが示す福岡市の不都合な真実』。これは福大の経済学部の木下敏之教授が書かれたものです。この方は、農水省の官僚で佐賀市の市長をなさった方です。その後、福岡大学の教授に転身してあるんですけど、福岡市って最強だよねって私たちは思っているんですけど、やっぱり福岡市にもいろいろ問題がありますよということが書いてて、そのためにどうしたらいいのかというようなことが書いてあります。

例えば、福岡市は出生率が低いとか、それから市民の所得が30年間ずっと横ばいであるとか、それとか国際都市福岡っていうふうに言われていますけれども、意外と内需型、国内向けの経済で発展している街なんですよという形で、これ非常に読みやすいです。読んでいただけたらと思って、これをまず御紹介します。

木下教授がおっしゃっていて、自分が強く影響を受けましたっていう本が、『人口戦略法案』。これ550ページくらいある分厚い本なんですけども、これは人口減少のメカニズムがよく分かる、本当に僕は良書だと思うんです。ただ、550ページもありますから大変だと思いますけれども、非常にいい本ですので読んでいただきたいと思っております。三浦部長、この本読んだことあります。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 読んだことはございません。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 部長は役目柄ですね、絶対に読まないといけない本です。ですから、550ページ、大変だと思いますけど読んでいただきたいと思っております。移民のことであつたりとか、なぜ人口が増えないといけないとか、それから子ども保険とか、それから特定技能者とかの話とかが、とにかく網羅してあつて、本当に僕はいい本だと思いますので、議員の皆様も時間があつたら読んでいただければと思っております。

では、質問をさせていただきます。私は、朝倉市100年の計と考えまして、やはり立派な人材を輩出していくことが大事だというふうに考えております。まず、日本の総人口が今約1億2,500万人ぐらいなんですけれども、これがずっと右肩下がりで下がっていきまして、2070年には8,700万人になるというふうに、国立社会保障人口問題研究所がレポートを出しております。

高齢化率も約40%ぐらいに、これ2070年にはなるということですね。日本の人口が約3分の2ぐらいになる、江戸時代ぐらいになるということで、2070年にですね、そういうことが書いてあります。

福岡市は今165万人ぐらい推計でいるんですけれども、私、朝倉市っていうのは福岡市のそばにありますので、非常に地理的に恵まれているのかなと思っております。福岡市の地価というのは物すごく高いですので、多分ベッドタウン化の波というのが来まして、朝倉市にも来るんじゃないかなと。さっき冒頭で私、息子のリモートワークのことも話しましたけれども、そういったので朝倉市にはチャンスがあるというふうに考えております。

そしてまた、京大の研究チームの方が100年の長いスパンで見ると、将来的に人口のシェアを増やすのは、東京と福岡だけだという記事が4月に出ました。リニア新幹線とかができて、交通の手段とかが便利になって、長い目で見ると大阪とかは東京のほうに吸い寄せられていく。人口が吸い寄せられていくと。

福岡っていうのは900キロという東京の距離がありますので、距離障壁というふうに教授は言っております。それがあから、福岡は東京の吸収の影響を受けなくて、福岡と東京だけが、これシェアの話なんですけれども、伸ばすことができるというような試算も出ております。

福岡というのは九州という大きなバックボーンがあって、そういった人の土台があるから、福岡は生き残れるということが書いてありますので、私、朝倉というのは非常に将来的にも有望ではないかなと思っております。

朝倉市のアンケートを取ると、朝倉市というのは住みやすく、満足度が高いというふうに聞いておりますので、朝倉市ってやっぱり住むのに適した街ではないかなと思っております。そういった意味で、朝倉市が非常に住みやすさというのを、これから売りにしてやったらいいのではないかなと思っております。

そういった中で、人口が減っていくけれども、子どもも減っていきますけど、優秀な人材を輩出することが朝倉市にとって、朝倉市のことを考えてくれる子どもを育てるのが、私は必要なことだと思っております。朝倉市から優秀な人材を輩出することが、私は学校教育に必要であるというふうに考えておりますが、教育長は2期目でいらっしゃいます。どういったことを、どのような人材育成を目指しているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 朝倉市から優秀な人材を輩出できる、そういった学校教育が大切であるというのは、当然、朝倉市教育委員会としても捉えております。

そこで、朝倉市教育大綱と連動いたしまして、朝倉市小中学校の学校教育目標を数年前から、ふるさと朝倉を愛し、社会に貢献できる子どもの育成といたしております。また、2年前には令和の教育10訓を出ささせていただきました、資料として出していただけますでしょうか。まもなく出ると思いますが、令和4年に朝倉市小中学校の令和の教育10訓を提示させていただきます、市内の全小中学校で、いわゆる行動規範を基本として取り組んでいただいている状況でございます。

実践評価、毎年これを行っております。数値を見ましても、年々向上してきているというように感じているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そしたら、行動規範とかそういったことが出ましたけれども、どのようなですね、私、優秀な人材と言いましたけれども、いろんな考え方があると思うんですが、どのような力を育てる教育を、教育長として考えているのか、すみません。教育長にちょっとプレッシャーをかけます。

経営の神様と言われている稲盛さんが、JALの再建のときに「組織はトップの器以上には大きくならない」と言われたんです。私、やっぱトップというのは大事だと思うんです。それだけみんなから見られているし、トップが何を考えているか、トップがどういう方向に進んでいくか、これでやっぱり組織って大きく変わっていくと思いますので、ぜひとも立派なかじ取りをしていただきたいというふうに思っております。

そこで、教育長に今日はいろいろ聞きたいと思っておりますけれども、もう一度お尋ねします。どのような力を育てる学校教育を目指していますか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 3年前に教育長に就任させていただいたときの、6月議会の一般質問でもお答えをさせていただきましたが、私は知徳体のバランスの取れた教育、子どもたちを育てたいと今も考えているところでございます。

その中でも、「知」いわゆる学力については、客観的な数値ではかることのできる知識であるとか、技能、思考力、判断力、表現力の向上はもとより、それらを支える、いわゆる自己存在感であったり、忍耐力であったり、協調性といった非認知能力、これの育成にも注力していきたいと考えているところでございます。

この非認知能力の育成については、学校教育の中では道徳であったり、学級活動、学校行事、そして中学校では部活動等で取り組んでいるところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 学力には偏差値であったりとかというような数値で表せるような狭

義、狭い意味での学力と、それから自己肯定感とか、それから協調性とか、そういった広義、広い意味での学力っていうのが、自己肯定感とか、そういったものがあると思うんですが、私はこれってやっぱ比例していくものじゃないかなと思っております。

そういった意味で数値でもはかりやすいですので、狭義の学力、要するに俗に言う成績みたいなものですね、勉強する成績。それを、さらに朝倉市は伸ばすべきではないかと。要するに、勉強して学力が高ければ私は人生の選択肢も増えるし、これからいろんな難しい問題とか、いろんな多様な価値観とかにぶつかっていくといけませんので、そういったものを乗り越えていくために、やはりそういった狭義の学力というのが大事になっていくのではないかと。

以前に比べると、朝倉市の学力自体がちょっと落ちているのではないかとというふうに心配をしているんですが、狭義の学力をさらに伸ばすべきだというふうに考えますが、これについてはいかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今小中学校の学力、いわゆる平均点ですね、一般的には平均点が非常に分かりやすいということで、それで指標として出す場合がありますけども、学力については年によって多少は変わってきます。しかし、少しずつ伸びている状況ではあるというふうに認識をしております。

学習の基礎基本を着実に身につけさせることを、これは各小中学校ともこれを重きを置いて今まで指導をしてきております。そこで、今後はさらに難しい内容を学びたいという子どもさん方に対して、発展学習的なそういった問題をどのように授業等に仕組むのか、または中学校卒業後の進路につなげるのか、さらに各学校、さらには校長会等々も連携をしながら考えていきたいと思っております。

加えまして、学力のみ高い児童生徒を育てても、その利点を生かすことができなければ何も意味がないのではないかと考えます。生かすための非認知力、能力、これを育てていく、これが非常に今大事であるというふうに私自身も感じているところでございます。

そのためにも、この朝倉市における小中学校時代の経験というものは、大変意味があるんじゃないかなというふうに考えているということでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、朝倉市における経験という言葉が出ましたけど、私も同感でございます、学校のほうで前から始まっている探究学習というんですか、自分で調べてやるような探究学習というのに、私はこれがポイントになるのではないかなというふうに考えております。

ここで私がまた提案をさせていただきたいんですけれども、朝倉市が直接的にかかわるのは保育所から中学生までだと思うんです。高校ってやっぱり県の部類になると思いますので、そういった意味で保育所から中学生の間で、やはり朝倉市の特色のある教育をや

っていききたいというふうに考えております。

そういった中で、高校生の提言というのをやっておりますよね。あれを、私は中学生の提言にすべきだというふうに思っております。中学3年生を対象にして、これ受験で忙しいかもしれませんが、議場に来ていただきまして朝倉市のことについて未来を語ってもらおう。そういうことが必要だと思うんです。

探究学習として、1年生のときにまず朝倉市のことを学ぶ。2年目のときにフィールドワークとして、いろいろ公民館に行ったりして地域のことを興味を持って、歴史でもいい、何でもいいですからそういったことを学んで、学習をする。そして、3年目で、ここでプレゼンテーションをする。こんなイメージなんですけども、これをやったら、きっと地域の理解が進んで朝倉市に私は愛着を持ってもらえるのではないかなと思っております。

私は、朝倉市の子どもたちに、朝倉市の職員の皆さんのような人になってほしいです。地域のことを愛して、地域のことの関心を持つ若者になってほしいんです。朝倉市の学生さんたちにコミュニティにいる、コミュニティ会長とか、事務局長のような人になってほしいです。そしたら多分、大学に出て広い世界で羽ばたくと思うんですけども、いずれ帰ってくるのではないかなと考えております。

このヒントを得ましたのは、長野県の飯田市というのが地域人、地域の人、地域人教育というのをやっております、人材サイクルというのを、これ高校で実はやっているんですけども、そういったことをやっている事例があります。

初め、高校生たちの感想は、地域って面倒くさそうというのが最初だそうです。そして、地域の人と関わって研究をしていくと、自分のやりたいことができる場所なんだということが分かるそうです。そして、関わった大人のほうも地域のことについて理解をしてほしいというふうに思うそうなんです。

そういった接点というのを、仕組みとして中学校のカリキュラムといいますか、そういうのを使ってこの議場で中学生の提言としてやっていただいたらどうかというものを考えております。いかがでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 実はそれ、その場面を高校生の提言は、中学生は3年前から議場の後ろのほうで、各中学校の生徒会の代表の子どもたちを毎年呼びまして、後ろから今、見ていただいている状況でございます。

将来的には、その中学校版をやらせていただけないかなというのが個人的な考えでございます、そういったのを考えて中学生に見ていただいている。また、市内の中学校、これは校長会中心ですけども、中学校の生徒会を集めまして、毎年いろんな生徒会の各学校の課題であるとか、市全体の中学校の課題であるとか、それを子どもたちの会議みたいな形でピーポートで行っている。そういったのがございます。

そういったものを、やっぱり系統的に3年間かけて計画を、全小中学校でやるというの

もいい案だなというふうに考えています。参考にさせていただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私の娘が高校生のときに、この高校生の提言でチーム募集があって、朝倉市のあれに行かないかと。そしたら、3か月か4か月前にいろいろ本を調べて考えているみたいなんですね。それって、その場限りといいますか、一夜漬け的な感じが私はしたんですね。それよりも、ちゃんとフィールドワークに基づいた、そういったのが必要じゃないかなと私は思います。

ですから、3年間作って、中学生の提言というのをぜひともやっていただけたらと思っております。データの中でも、地元の企業を知らない人、地元のことを知らない人と、地元のことをある程度理解しているというふうに答えた生徒さんの戻ってくる率、地元に戻ってくる率というのは倍ぐらい違うそうなんです。

確かに、高校を卒業して大学に行って、地元のことを理解しているというのはなかなか難しいと思います。接点を増やしていただきたいというふうに思っておりますので、可能であればぜひともお願いいたします。

では、最後に本の一節を読ませていただいて終わりたいと思います。これ、すみません。本の中で総理大臣が話していることです。

私が非常に心配しているのは、これから生まれてくる将来世代のことです。このままですと、これから100年近い間、人口が急激に減少する時代が続きます。では、そうした時代に生まれ、長い下り坂を歩み続けることが運命づけられている将来世代は、自分たちの置かれている状況に対し、一体どのような気持ちを抱くのでしょうか。国民も皆様も一度想像していただきたいと思います。

果てしなく人が減り続け、町が消滅していく中で、自らの活路を見出さなければならぬ将来世代の心情を。私たちは、未来の子どもたちに対して責任があると思います。これから人口が減って行って、どんどん自治体が消滅していったりするようなことも起きるかもしれません。

そういったのというのは、子どもたちからすると大人たちの責任だと。何でこういった未来を自分たちに用意したんだと、自分たちのスタート地点はなぜここからなんだというような、世代間の対立が私は起きるんじゃないかと心配しております。

花は咲く、花は咲く、私は何を残しただろうと。お金を残すのも、名を残すのも、人を残すのも、それぞれ必要でしょう。でも、私たちは責任があるので、朝倉市のこと、私は朝倉市の議員ですので、朝倉市の子どもたちに責任を持って未来を残してやらないといけないと考えております。

今日はあとの残りの質問は、また次回やらせていただきたいと思っておりますので、どうぞ朝倉市の未来の子どもたちのために、これからも頑張っていきたいと思っておりますので、職員の皆様もお力を貸していただきますようお願いいたします。以上で、質問を終わります。

○議長（小島清人君） 12番中島秀樹議員の質問は終わりました。

以上で通告による一般質問は終わりました。

これにて一般質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。午前11時10分に再開いたします。

午前11時零分休憩